

北海道拓殖鉄道 学習レポート

拓鉄知識!

増田秀則さんの話によると、拓鉄の色は、紺にクリームだったらしく、廃止直前にピンクになった。木材は、西ヌプカの奥から持ってきていた。拓鉄が通っていた駅は、新得駅→南新得駅→佐幌駅→屈足駅→熊牛駅→新幌内駅→鹿追駅→北笹川駅→自衛隊前駅→瓜幕駅→中瓜幕駅→東瓜幕駅→中音更駅→上士幌駅で、屈足と熊牛の間にあるトンネルは、冬に大きいつららができて、鉄道がぶつかると、窓が割れた。そのため、鉄道が通らない時には、扉を閉めていた。すると、つららができなくなった。

工事はすべて手作業でやっていた。コンクリートのアーチ橋は、まず、木で枠を作る。〔かまぼこ型〕次に、コンクリートを流す。最後に、上に土を盛る。鉄道の下には川が流れ、列車は上を走っていた。昔は、大きなバケツにコンクリートを入れて、上まで運び、流し入れる作業を繰り返していた。



廃止直前の車両

<http://homepage3.nifty.com/idoido/shihorosen/tokachi.html>

拓鉄を学んで

トンネルにできるつららを鉄道が時に扉を閉めて、防ぐことができずすごい! 増田秀則さんの話からたくさんを学べてよかった。その中でも、トンネルのつららを防ぐ話と、空中写真を利用することによって、昔、線路が通っていた所を今の場所ではどこかわかるという話が印象に残った。

拓鉄が通っていた所を見学して、新しい発見はないか探すのが楽しかった。何のためなのか不思議なトンネルがあり、そこが気になった。

100周年には鹿追にある拓鉄を中まで見学できるようにし、拓鉄に詳しい方に話をしてもらい、歴史をどんどん伝えていけるようにしたらいいと思う。

あとがき

話に合う写真を選んだり、まとめるのが大変だった。工夫した点は、タイトルの字体と色だ。自分の学習レポートを読んでもらって、何か感じてもらいたい。これからも、新地球学を楽しみたい。

